

9月11日 マルコによる福音書12章35～44節 今日の説教から
説教題：「わたしのすべてを捧げます」

今日の聖書箇所では神殿の賽銭箱にたくさんの捧げ物を行うお金持ちと、銅貨たった2枚しか捧げることが出来ない貧しいやもめの姿が記されています。ここで登場するレプトン銅貨とは当時の最も価値の低いお金で、128枚集めてようやく一日の賃金であるデナリオン銀貨と同じ価値となります。銅貨2枚となると100円か50円程度でしょうか。それが全財産ということは、明日食べるためのパンを買うことが出来るかどうか、それ程のお金しかこのやもめは持っていませんでした。そのすべてを、献金としてささげてしまったのです。

やもめとは、寄留者である外国人や孤児と並んで、弱い立場の人々の代表でありました。男性中心の社会の中で、夫がいない女性とは誰からも守られることのない、極めて弱い立場の人々でした。もはや守ってくれるのは神さましかいない、そのような人々をないがしろにすることがないようにと律法には定められています。

ただ、実際はその律法が守られていたかと言えば、必ずしもそうではなかったようです。今日の個所で、イエス様は律法学者を強く批判しています。「律法学者に気をつけなさい。彼らは、長い衣をまとって歩き回ることや、広場で挨拶されること、会堂では上席、宴会では上座に座ることを望み、また、やもめの家を食い物にし、見せかけの長い祈りをする」そのように、弱い人々を食い物にして、自分の立場をひけらかすその様子が強く批判されています。長い衣は地位の証しであり、上席・上座は敬われる人々の座る席です。そして見せかけの長い祈りによって、彼らは自分がどれほど立派な人物なのかを周囲の人々に知らせようとしていました。そのように自分を神とするような、自分のすばらしさを示すために信仰を利用するような人々には、誰よりも厳しい裁きが神様から下ることになります。

イエス様はその人生のすべてをもって十字架へと歩み続けました。人々に悔い改めを勧めながら、神様のことを教えながら、その歩みは一步ずつ十字架へと進んでいたのです。その人生のすべてをもって、私たち人間の救いのために十字架にかかれたイエス様は、まさしく今日の個所ですべてを捧げたやもめと同じように、その人生のすべてを神様に捧げていたのです。

そこにあるのは、今持っているものをすべて失ったとしても、神さまを頼ればどうにかなるという「絶対の信頼」です。十字架の直前、ゲツセマネの祈りの中で「この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように」、そう祈ったイエス様は、すべてを神様の手に委ねました。その信頼こそが信仰であり、私たちの追い求めるべき姿なのです。

貧しいやもめは、持っているものをすべて教会に捧げました。イエス様はその人生のすべてを神様に捧げました。私たちも同じように、その人生をもって神様に仕えているのです。すべての賜物によって、すべての日々の業によって、そして当然日々の献金という形で、私たちは神様に仕えています。それが「だれよりもたくさん入れた」と褒められるかどうかは私たちには分かりませんが、「わたしのすべてを捧げても大丈夫」という信頼は、私たちの業を確かに支えてくれているのです。

私たちもイエス様のように、神様を信じて歩むことが出来る。その喜びを胸に、今週一週間の、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：マルコによる福音書 12 章 35～44 節

- 35: イエスは神殿の境内で教えていたとき、こう言われた。「どうして律法学者たちは、『メシアはダビデの子だ』と言うのか。ダビデ自身が聖霊を受けて言っている。『主は、わたしの主にお告げになった。「わたしの右の座に着きなさい。わたしがあなたの敵を／あなたの足もとに屈服させるときまで」と。』このようにダビデ自身がメシアを主と呼んでいるのに、どうしてメシアがダビデの子なのか。」大勢の群衆は、イエスの教えに喜んで耳を傾けた。

- 38: イエスは教えの中でこう言われた。「律法学者に気をつけなさい。彼らは、長い衣をまとって歩き回ることや、広場で挨拶されること、会堂では上席、宴会では上座に座ることを望み、また、やもめの家を食い物にし、見せかけの長い祈りをする。このような者たちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる。」イエスは賽銭箱の向かいに座って、群衆がそれに金を入れる様子を見ておられた。大勢の金持ちがたくさん入っていた。ところが、一人の貧しいやもめが来て、レプトン銅貨二枚、すなわち一クアドランスを入れた。イエスは、弟子たちを呼び寄せて言われた。「はっきり言うておく。この貧しいやもめは、賽銭箱に入れている人の中で、だれよりもたくさん入れた。皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れたからである。」